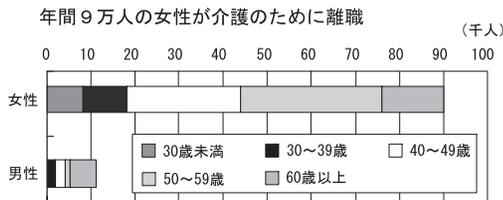


統計の眼



総務庁「就業構造基本調査」(97年)により作成(国民生活白書から)

ポイントだけ挙げてみると、介護施設への入所意向では、「介護施設へ入ってもよいという気持ちはある」は、全体で「ある」が六五・三%、「ない」は二〇・五%。性別では「ある」の割合が女性、「ない」の割合が男性で高い。「施設に入所してもよい」理由では、全体で「家族に迷惑をか

介護に関する男女の意識
本格的な高齢社会を迎えた現在、多くの人たちが老後、介護に関心を抱いている。厚生省「国民生活基礎調査」(九五一年)によれば、介護の担い手は主に中年の女性である(全国で七三万五千人、うち女性が六〇万五千人)。また、家族の介護・看病のために離職した人は年間十万人で、そのほとんどが女性であるという(図)。

そこで、総理府「高齢者介護に関する世論調査」(九五一年)により、介護に関する意識を男女別にみてみた。どの設問とも最も高い項目は男女とも共通であるが、次に高く挙げたものに男女の意識の差がうかがえる。

けたくない(七六・九%)が高く、特に二十~五十歳代の女性に高い。施設への入所を望まない理由では、「できる限り自宅で生活がしたい」が七三・六%と高く、性別では「他人の世話になるのはいや」が男性で高くなっており、年齢別では六十歳以上に高い。

次に、自宅での介護形態では、「家族を中心にヘルパーなど外部も利用」四二・六%、「家族だけで」二五・〇%、「外部を中心に家族も」二一・五%と続く。性別では「家族だけ」が男性(特に五十歳以上)、「外部を中心に家族も」が女性で高い。「家族だけに介護されたい」の理由では、「他人の世話になるのはいや」五二・九%、「他人に家庭に入ってきてほしくない」四〇・四%、「家族の者だけで十分」三七・六%の順になっている(複数回答)。「家族の者だけで十分」は、特に男性、年齢別では六十歳以上で高かった。「家族の誰に介護されたいか」では、男性は「配偶者」(七三・六%)、女性では「娘」(二四・二%)が高い。

以上、紙数の関係上すべてを紹介できないが、「介護は家庭で女性が」の傾向が社会全体、特に男性に強く表れている。来年四月から始まる介護保険制度については解決すべき問題が多いが、介護サービスが十分供給されることにより、個人(特に女性)や家族の介護負担を少しでも軽減できるよう期待したい。

(金子)